

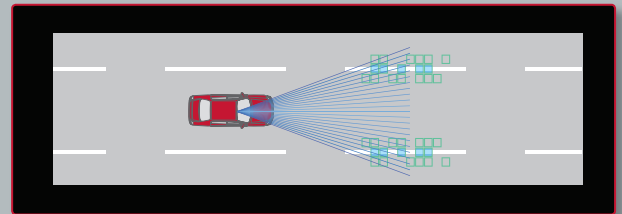
# 危険な状態になりそうなときも安全な状態に戻すようドライバーをサポートします

「危険が顕在化している」場合に警報を発するシステムを作動するなどして、危険な状態にならないようドライバーをサポートします。

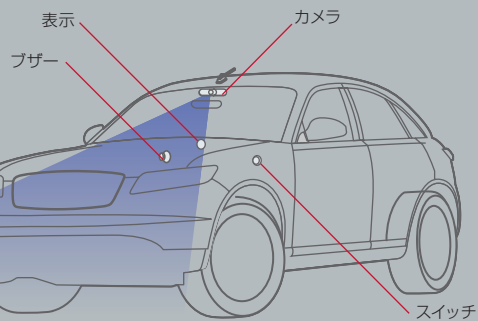
## レーンデパーチャーワーニング

レーンデパーチャーワーニングは、車両前部に取り付けたカメラで道路上のレーンマーカーを検知することにより、ドライバーが意図せずクルマが車線を逸脱しそうになると、インストルメントパネルへの表示と音でドライバーに報知します。日産は、このレーンデパーチャーワーニングを2004年に北米市場で乗用車として初めて採用しました。

ドライバーが車線変更のためのウインカー操作をした場合、この機能は動きません。



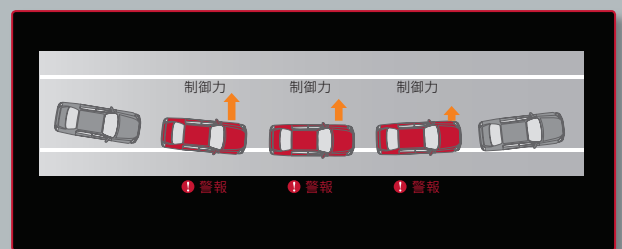
レーンマーカーの検知イメージ



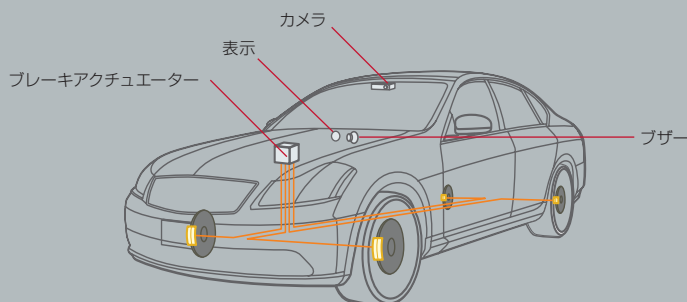
## レーンデパーチャープリベンション

(開発中)

レーンデパーチャープリベンションは、ドライバーが意図せずに、車両がレーンマーカーに近づくと、インストルメントパネルへの表示と音でドライバーに報知するとともに、車線内にクルマを戻す力を発生させ、ドライバーの操作を支援します。



レーンデパーチャープリベンションの作動イメージ

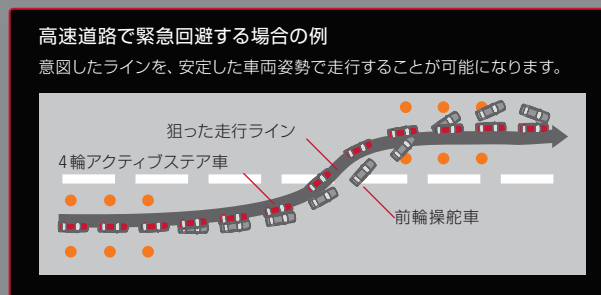
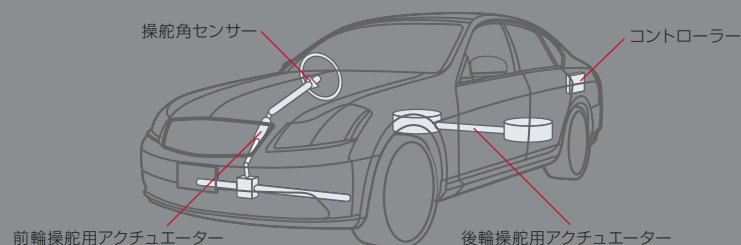


## 4輪アクティブステア

(開発中)

4輪アクティブステアは、状況に応じて4輪全ての舵角を制御します。

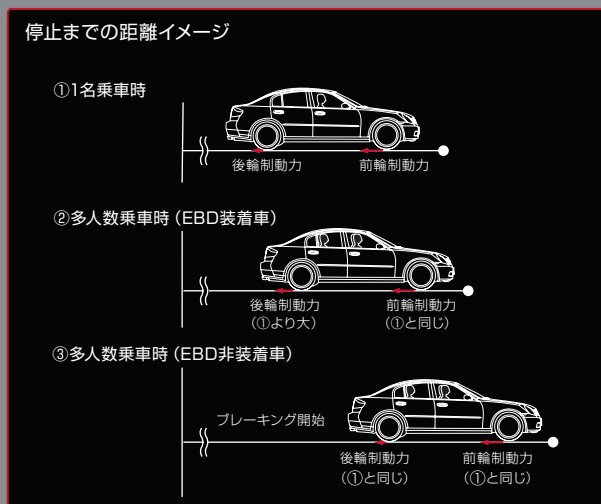
例えば、高速道路で緊急回避する場合などでは、安定性と応答性を向上させ、ドライバーが意図した通りのラインで走行することが可能です。一方低速時には、ギア比の制御により、少ない操作での曲がりやすさを実現、運転負荷を軽減します。



4輪アクティブステアの作動イメージ

## EBD (Electronic Brake Force Distribution : 電子制御制動力配分システム)

EBDは、ABS (アンチロックブレーキシステム) を応用し、制動中に前後のタイヤに発生する微小なスリップを検知して、後輪の制動力をコントロールするシステムです。乗員数や積載状態に応じて後輪制動力をコントロールすることで、車が軽い状態のときと、重い状態のときとで生じる制動性能の差をより小さくします。

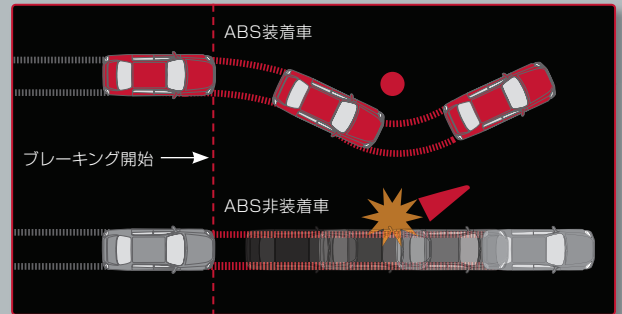


EBDの効果

「衝突するかもしれない」場合には、ブレーキ操作をアシストしたり、車両姿勢をコントロールして危険な状態から安全な状態に戻すようドライバーをサポートします。

## ABS (Anti-lock Braking System : アンチロックブレーキシステム)

ABSは、雪道や雨に濡れた舗装道路など、滑りやすい路面での急ブレーキ時に、電子制御によりブレーキ液圧をコントロールし、タイヤロックを防止します。ブレーキ使用時のクルマの安定性が向上するとともに、ステアリング操作による障害物の回避などがしやすくなります。



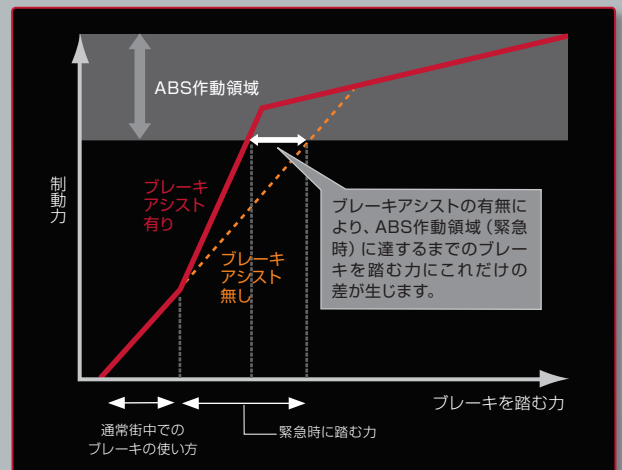
ABSの効果

## ブレーキアシスト

ブレーキアシストは、緊急時のように大きな制動力を必要とするときに、従来より少ない力で大きな制動力を発揮できるようドライバーをサポートするシステムです。ブレーキを踏む力が一定以上の強さを超えると、ブレーキアシストが作動します。

市街地などの通常走行時には自然な制動特性を持ちながら緊急時には少ない力で大きな制動力を発揮できます。これにより、ABSを効果的に作動させることができ、万一の場合の事故回避能力をさらに向上させることができます。

ブレーキアシストは、日産が1997年に世界で初めて実用化した技術です。

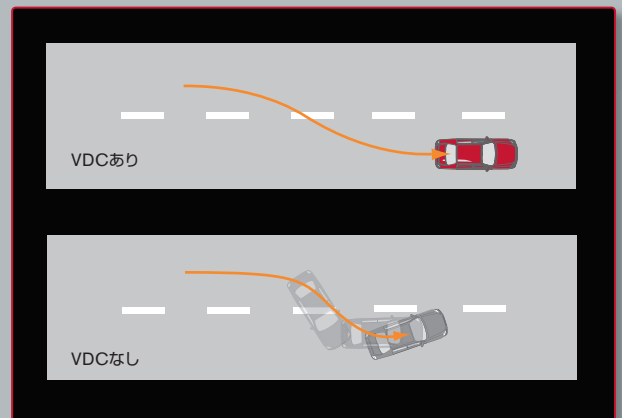


ブレーキアシストの効果

## VDC (Vehicle Dynamic Control : ビークルダイナミクスコントロール)

VDCは、ABS、TCS\* (トラクションコントロールシステム)の機能に加え、ステアリングやブレーキ、アクセルなどの操作で車両が横滑りしそうな状態をセンサーが感知すると、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して、車両の安定性を向上させるシステムです。

\*TCS : 駆動力制御システム



VDCの効果